

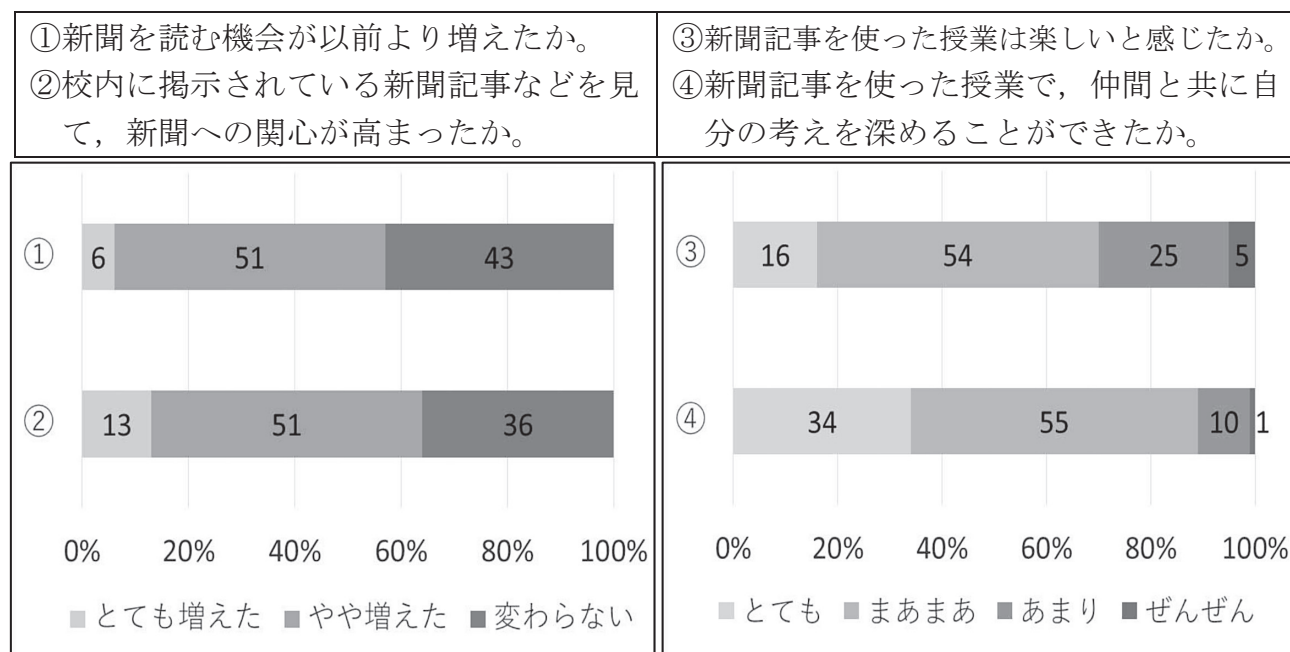
自分で考え、仲間と共にによりよく判断し、行動する生徒の育成

上越市立三和中学校

1 N I E実践のねらい

(1) N I Eにおける生徒の実態と課題

インターネットや携帯情報端末の普及を反映して、紙媒体の新聞を購読しない家庭も増えてきており、新聞に親しんでいない生徒が多いのが現状である。そこで、まずは生徒が気軽に新聞に触れることができるようにすること、そして新聞を読む習慣を身に付けることに重点を置いて取り組んできた。また職員も、それぞれの教科で「まずは新聞を使ってみる」ことを心掛け、新聞を少しでも身近に感じることができるよう働き掛けを行ってきた。以下が今年度の9月に行った校内アンケートの結果である。



「新聞を読む機会が以前より増えた」と肯定的に答えている生徒は57%であった。通年、全学年全クラスで終学活の中に「新聞記事紹介」を位置付けてきた効果であると考えられる。

また、「掲示物を見て、新聞への関心が高まったか」という質問に対しては、64%の生徒が肯定的な評価であった。新聞開架コーナーには複数の新聞の開架を始め、新聞の魅力を伝える掲示物を展示し、新聞を思わず手に取ってみたいくなるような工夫を多数施している。それが、新聞への関心を高めるよいきっかけとなったようである。

「新聞記事を使った授業は楽しい」と答えた生徒は70%、「考えを深められた」と答えた生徒は79%となった。新聞記事を使った授業実践が仲間と共に話し合い、考えを深める体験となり、それが楽しさにつながったのではないかと考える。

一方で、新聞に関心が向かない生徒が4割程度いることも事実である。生徒が少しでも新聞に関心をもつようになることは、生徒自身が主体的に学習に取り組んでいくきっかけになると考える。そのために教師側が、新聞の特徴と学習効果を踏まえ、新聞を活用できる授業を継続的に実践し、新聞を身近なものとして捉えさせていきたい。教師自身が日頃から新聞記事に関心をもつこと、単元への位置付けの構想を練っていくことが課題となる。

(2) 校内研修とN I Eとの関連

本校では「資質・能力の育成を目指した仲間と共に学び合う授業改善」を主題として職員研修を進めている。主題に迫るため、「知識や技能を転移・リンクさせた思考力、判断力を活性化させる授業改善」と、「協働学習の質的向上を目指す集団力育成」に的を絞って取り組んでいる。この度、N I E実践校の指定を受けたことで、生徒の活動の幅を広げるとともに、内容の深化を図ることができるようになったと考えている。これまで行ってきた活動の中に新聞を使った活動を取り込み、有効に活用していくことを第一に実践を進めている。

(3) N I Eを通して、生徒に身に付けさせたい力

本校のN I Eの研究テーマは「自分で考え、仲間と共により良く判断し、行動する生徒の育成」である。授業を始めとする学校の教育活動に新聞を取り入れることで、生徒に以下のような力を身に付けさせたいと考えている。

- ①思考力…多くの新聞記事に触れ、内容を読み取りながら自分の考えをまとめることができる力。インターネット検索に代表されるようなピンポイントの知識に満足せず、多くの記事に触れることで、視野を広げたり知識を深めたりする姿をイメージしている。
- ②判断力…情報発信者のねらい、仲間の意見の根拠などに目を向け、情報を取捨選択したり、自分の考えを深めたりする力。全ての情報には発信者の意図が含まれていることを意識し、記事を読み解いたり、仲間との意見交換をしたりすることで、独り善がりな考え方から脱却する姿をイメージしている。
- ②行動力…活動を通して気付いたこと、学んだことを整理して発表したり、日々の生活に生かしていったりする力。学習活動を通して身に付けた知識や技能をその場限りのものにせず、日々の生活の中に取り入れ、自分の人生を豊かなものにしていく姿をイメージしている。

2 本年度実践の概要

(1) 新聞開架コーナーの設置（通年）

- ①校舎1F渡り廊下にある「三和中インフォメーションセンター」に、N I E事業で購読している複数の新聞を開架した。一か月ごとに別綴じとして、バックナンバーについても参照しやすいように配慮している。
- ②生徒や職員が自由に閲覧したり、持ち出したりできるようになっている。授業の導入で用いられたり、全校で行っている朝読書の時間に読まれたりしている。

(2) 新聞記事紹介の取組（通年）

全学年全クラスで、終学活の中に「新聞記事紹介」を位置付けている。生徒全員が前日までの新聞記事で印象に残ったものを選び、その記事の何が印象的だったのか、何を考えたのかについて、1分程度でスピーチを行う活動である。今年度は、学年・学級単位で記事のジャンルを指定したり、発表した内容をスクラップしたりして、活動の深化を図った。



新聞開架コーナー



新聞記事紹介

(3) 各教科・領域での新聞記事を活用した実践の一例（研究授業以外で適宜実施）

教科・領域	授業内容・活用内容
国語	新聞記事を基に意見文を書く 新聞記事を聞き取り問題に活用する
社会	新潟県新聞・世界の国新聞の作成 新聞記事を基にレポート作成
数学	データの活用・確率・1次関数の導入に新聞記事を活用
理科	理科に関する新聞記事を紹介し、既習事項と関連付ける
英語	英字新聞の表現を学び、実際に英字新聞を書いてみる
学級活動	「進路情報記事の紹介」「生まれた日の新聞を紹介」
生徒会活動	「ミニ意見発表会（新聞投稿欄への応募）」（図書委員会）

<社会科の授業実践>

●2年地理「中部地方」：新潟県新聞を制作しよう

新聞活用のねらい

新潟県について調べた内容から必要な情報を選び、読み手を意識し、自分が伝えたい情報を分かりやすく表現し伝える力を育む。

授業の概要

- ・実際の新聞から新聞記事の工夫を見つけ、それをもとに新聞制作を進める。
- ・完成した新聞を掲示し、それぞれの新聞のよいところ・工夫点を評価し合う。

成果・自ら新聞制作をすることで、違う視点から新聞を見つめることで、その工夫に気付
き、情報活用能力の育成を図ることができた。

<学級活動の実践>

●「自他の個性の理解と尊重」

新聞活用の概要

生徒一人一人の誕生日に生まれた日と現在の誕生日の新聞記事の切り抜きをプレゼントする。生徒に社会との関わりの中で自分の存在価値を感じさせることで、自尊感情を高める一助とする。生徒は、新聞記事を受け取り、とてもうれしそうだった。



生まれた日の記事をもつ生徒

(4) N I Eに関連する校内研修（授業公開）

日 時				内 容	指導者 N I Eアドバイザー	
月	日	曜	時 間		所属	氏名
7	14	水	14:40～16:35	校内授業研修 (道徳：3年部)	直江津中校長 柏崎小教諭	鈴木 克典 様 山之内朋子 様
10	20	水	14:40～16:35	校内授業研修 (総合的な学習の時間：1年部)	直江津中校長	鈴木 克典 様
11	11	木	13:40～16:30	研究発表会 (総合的な学習の時間：2年部)	直江津中校長 柏崎小教諭	鈴木 克典 様 山之内朋子 様
1	31	月	15:20～16:35	N I E活動のまとめ 今後の取組について	直江津中校長	鈴木 克典 様

3 実践例

(1) 実践例 1 第1学年 総合的な学習の時間 (令和3年10月20日実施)

「これからの決意～SDGsを視点とした新聞記事の読み取りを通して～」

①ねらい

- ・新聞記事の読み取りを通して、自分たちの身の回りにある問題に目を向ける。
- ・新聞記事に対する自分の意見を持ち、話し合い活動を通して考えを深め、日常生活でどのようなことができるのかを考える。

②授業の概要

前時で、新聞記事を用いて、その記事がSDGsのどのゴールに当てはまるかを考え、内容を読み取り、自分の感想を記入した。本時では、班の中で、一つの記事に着目し、その出来事によって起こる「良いこと」と「課題」の二つを考えた。その考えた内容を使って、自分が考えたことやできることを考え、その活動を通して、自分が日常生活の中でどのようなことができるかを考えた。



自分ができることを話し合う生徒

<生徒の振り返り>

- ・選んだ記事の「良いこと」と「課題」とを見つけ、課題をどうするか自分たちで何ができるか考えることができました。また、新聞をただ読むだけでなく内容を分析することで、見出しからでは分からないことも見つけることができました。
- ・「新型コロナウイルス感染症」に関する今の状況を知ることができました。他の班の記事や意見に触れて、自分の知らない出来事がたくさんあることを知りました。これからも新聞に目を向けていきたいです。



生徒のワークシート

(2) 実践例2 第2学年 総合的な学習の時間（令和3年11月11日実施）

「NIEで描く未来設計図」

①ねらい

- ・職業に関する新聞記事から、職業の現状を読み取り、その未来の姿を予想することを通して、自分の生き方や進路・職業選択について深く考えることができる。

②授業の概要

本時までに、医療、運輸、情報サービス、スポーツ、製造、農業の六つのテーマで班分けし、それぞれの職業分野に関する新聞記事から、現在の職業の現状を読み取り、インターネットや他の新聞記事、本などを用いて未来の職業の変化について情報収集を行った。そして、将来自分たちに必要となる資質・能力について模造紙にまとめた。

本時では、同じテーマの班同士で、互いの班の発表を聴き合い、意見交換を行った。スポーツをテーマにした班では、スポーツの未来について、急速に発展する人口知能（AI）との関りや新しいスポーツ文化という視点で議論を深めた。買い物とスポーツ観戦などを一緒に楽しめる複合商業施設ができたり、AIが判定や分析にとどまらず、選手に励ましの言葉を掛けるなどコンディション管理にも活用されたりする可能性について考えた。

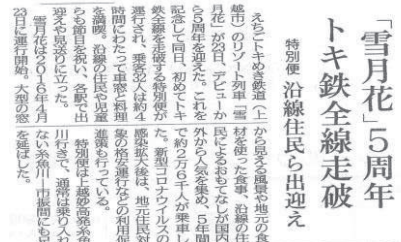
<生徒の振り返り>

- ・AIを活用することで、障害のある人がより活躍できるなどスポーツの幅はさらに広がると考えました。記事を読んでまとめることは他の授業ではなかなかできないこと。読み解く力が付きそうだと思います。
- ・機械の無人化や自動化が進み、多くの人にとって便利な社会になると考えたので、未来は明るいと思いました。地元の鉄道会社がウィルス禍の中、利用促進の取組をしている記事は運輸の未来を考える上でヒントになりました。

2021年8月17日付け新潟日報



2021年4月24日付け新潟日報



③研究協議会

研究協議会には上越市内の小中学校の教員ら約 30 人が参加した。テーマを自分事としてとらえ、記事を活用できていたという意見が出た一方、製造班の意見交換では、ロボットと手作業など対立軸があるとより活発な話合いが生まれるのではないかという改善点も出された。生徒たちが関心をもち、読み解きやすい記事の選択が難しいとの意見も出た。また、記事の読み解き方に注目し、「より深い議論には記事のポイントを押さえ、要約するトレーニングも大事」という感想も出た。



互いの班の内容を発表する生徒



研究協議会でのグループ協議の発表の様子

4 成果と課題

前述の生徒のアンケートからも分かるとおり、今回の取組の最大の成果は、「新聞を読む機会が以前より増えた」と肯定的に答えた生徒が 57%いたことである。本校でも新聞未購読家庭が約 38%に上る中、生徒が気軽に新聞に触れることができるようになったことは大きな成果である。また、新聞を活用した授業を展開していくことで、生徒が以前よりも新聞に関心をもち、主体的に学習に取り組むようになった。これらの実践を通して、新聞は自分の知らない情報や世界のことを教えてくれるツールであり、考えを深めるきっかけとなることを実感することができた。そして、新聞は生徒の新たな学びの窓口となり、私たち教師の授業改善のツールとなっていくと考える。以上の点から、来年度以降も課題として次のようなことに取り組んでいきたい。

①新聞記事紹介の継続

終学活の中に位置付けている本取組は、生徒に浸透した取組となっている。今後は、紙媒体の新聞だけではなく、Web 新聞の活用も進め、タブレット端末を用いた新聞記事紹介も行っていきたい。

②教科、領域で単元に計画的に位置付ける。

教科・学年単位でこの 2 年間で実践してきた授業を始め、更に活用できる場面を話し合い、位置付けを行っていく。

上記 2 点を念頭に置き、できる範囲で実践を進めていきたいと考えている。(熊木恵美子)